

生い立ち

子どものとき、わたしはたくさんの将来のゆめがありました。

その中の一つは、日本に行くゆめでした。

大きくなってからも、わたしは自分の未来をどうするか考えていました。

そして、ついに「日本に行こう」と決めました。

でも、かんたんではありませんでした。

これから行く道に、なにがあるかわからなくて、こわかったからです。

それでも、ちょうせんしなければ自分の未来をつくることはできないと知っていました。

母もわたしに言いました。

「こわいと思うからこそ、やってみるべきだよ。大きいゆめはこわいもの。でも、そのゆめにはねうちがあるよ」と。

日本のきれいな文化をえがく映画をたくさん見るうちに、わたしはもっと日本に行きたいと思いました。

そして、ケンジメンを見つけて、「ここからすべてが始まる」と心の中で言いました。

日本語の勉強を始めたとき、とてもむずかしかったです。

でも、どんなに大変でも、どんなにむりそうでも、「なぜ始めたのか」をわすれないと自分に言い聞かせました。

つらくても、つかれても、わたしは最後までやりとげます。

これまでがんばってきたので、わたしはゆめが全部かなうことを心からねがっています。

そして、先生の皆さんにありがとうと言いたいです。

とくにウェンディー先生、本当にありがとうございます。

心のそこから、かんしゃしています。